

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		基礎分野
科目名	講師名	
英語	関井 純子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・後期	30時間／2単位／15回	講義
授業概要 (目的)	外国人患者に対して適切な対応ができる英会話の技能を身に着ける	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 柔道整復師として必要な語句や表現を理解して使えるようになる</li> <li>2. 積極的に英語を学ぶ意欲を持つ</li> <li>3. 日常英会話に慣れ親しむ</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<p>受付で使う表現 (予約時間、名前、生年月日、職業、国籍など)</p> <p>問診で使う表現 (症状、痛みの種類、期間、アレルギーなど)</p> <p>施術時に使う表現 (動作の指示や説明)</p>	音読練習、ロールプレイ
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
授業内に行う筆記テストと定期テストの合計点数により評価する	自作プリント	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		基礎分野
科目名	講師名	
基礎運動学	杉山 渉	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／4単位／30回	講義
授業概要 (目的)	運動学は、身体の構造と機能を学習することにより、身体のメカニズムと運動の様相を理解する。身体運動の理解に必要な生体力学や、全身の主な関節の運動、筋の機能について理解する。さらに、姿勢や歩行について学習し、人間の動作について運動学的観点から理解する。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の構造と機能を学ぶ。</li> <li>2. 全身の主な関節の運動、筋の機能を学ぶ。</li> <li>3. 姿勢や歩行について学ぶ</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<small>(前期)</small> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動学の目的</li> <li>2. 運動の表し方</li> <li>3. 身体運動と力学</li> <li>4. 運動器の構造と機能</li> <li>5. 神経の構造と機能</li> <li>6. 運動感覚</li> <li>7. 反射と随意運動</li> </ol> <small>(後期)</small> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 四肢と体幹の運動</li> <li>9. 姿勢</li> <li>10. 歩行</li> <li>11. 運動発達</li> <li>12. 運動学習</li> </ol>	<p>基本的な身体運動を表現することができるようにする。                      復習を通して、自己の課題に気づき、課題克服に向けた取り組みを図るようにする。</p>
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書
成績評価の方法 期末試験に出席状況、授業態度等を加味し、総合的に評価する。		テキスト・教材・参考書 「運動学」(改訂第3版)
担当教員の実務経験の有無		無
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科	基礎分野	
科目名	講師名	
保健体育 I	久保田 豪/菅原 めぐみ	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／4単位／30回	実技
授業概要 (目的)	柔道の基本的な礼法、受身動作を習得し安全に柔道を実施する。 また、「投の形」を学び、柔道の素養を理解する。	
目標	1年生全員柔道1級取得を目指す。授業内での重大事故ゼロ。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前受身</li> <li>2. 横受身</li> <li>3. 前回受身</li> <li>4. 寝技の基本</li> <li>5. 基本的な投技</li> <li>6. 投の形（手技）</li> <li>7. 投の形（腰技）</li> <li>8. 投の形（足技）</li> <li>9. 連続技</li> <li>10. 約束乱取</li> <li>11. 乱取</li> </ol> 上記を十分に安全に留意した順序、難易度で行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受身の習得は段階的に学生ごとの運動レベルに合わせてながらしっかりと行う</li> <li>・基本的に体格のあった者同士ペアでの技練習を段階的に行う</li> <li>・柔道を行う上で必要な動作、服装が適切であるか（礼法、受身、技、身だしなみ）</li> </ul>
定期試験結果、出席状況、授業態度を評価の対象とする。	講道館柔道DVDシリーズ第3作「投の形」	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門分野
科目名	講師名	
体育学	宮澤 武瑠	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・前期	15時間／1単位／8回	講義
授業概要 (目的)	スポーツを多方向から理解できる。 スポーツに取り組む方への関わり方を考えられる。	
目標	<p>知識: する・見る・支えるスポーツを説明できる。スポーツ選手への身体の説明ができる。関わり方述べることができる。</p> <p>態度: 自分の考えを表現する。現場に立ったことをイメージして表現できる。</p> <p>技能: 自身の経験したスポーツを調べる。過去の経験を振り返ったときに、自分のスポーツ経験を多面的に見て表現できる。</p>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<p>1回目: オリエンテーション。する・見る・支えるスポーツ</p> <p>2回目: するスポーツ。アスリートと一般の方の違い。</p> <p>3回目: 支えるスポーツ。柔道整復師としての立場の変化。</p> <p>4回目: 関節について。</p> <p>5回目: スポーツを取り巻く環境。主に経済的な概要。</p>	
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
<p>別途定める「成績評価の方法と基準」に従い、当該科目の評価に必要な評価項目を選択し、それぞれの評価割合を設定します。</p> <p>(例) 筆記試験による評価、試験、レポート等による総合評価等</p>	各授業でレジュメ配布。	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門分野
科目名	講師名	
スポーツ栄養学	森 真貴子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・前期	15時間／1単位／8回	講義
授業概要 (目的)	スポーツにおける栄養について、科学的根拠に基づく栄養学の基礎的な理論を学び、実際のスポーツの場面で活かせる知識を習得することを目的とする。	
目標	栄養素の体内でのはたらきについて説明できる。 スポーツにおける栄養素の体内でのはたらきについて説明できる。 スポーツにおける代謝と栄養素との関わりについて説明できる。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	スポーツ栄養学とは スポーツと栄養素 (糖質 脂質 たんぱく質 ビタミン ミネラル エネルギー 水) スポーツと栄養サポート (体重管理 スポーツ外傷 サプリメント) スポーツ栄養学のまとめ	
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
筆記試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。	スポーツ栄養学	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科	基礎分野	
科目名	講師名	
スポーツ心理学	内城 寛子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・前期	30時間／2単位／15回	講義
授業概要 (目的)	スポーツおよび健康運動実践者の心理を対象として、心と身体の関係性や多岐にわたるスポーツ行動の心の問題の理解を深める。特に競技場面の競技心理課題や合理的認知スキルの獲得課題、社会心理的課題、健康運動継続のための心理課題について解説する。	
目標	知識: 自己と他者の心の健康について説明できる。 態度: 多様な価値観に適応し、積極的に他者とコミュニケーションできる。 技能: 自身の健康管理ができ、社会性のある行動ができる。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	1) ガイダンス 心について 2) スポーツをする人の心について 3) 人の心の理解・認知心理 4) 心の健康とストレス対処 5) 社会性とライフスキル 6) コミュニケーションスキル 7) 発達とアイデンティティ 8) 学習と動機付け 9) バーンアウト 10) 競技における心理課題 11) 受傷後の復帰支援 12) 目標設定 13) コーチングとカウンセリング 14) ジェンダーとLGBT (多様性の理解) 15) チームワークとリーダーシップ	LGBTQや自閉スペクトラム等の特性のある学生に対しての配慮が必要。  心的外傷(トラウマ)のある学生も受講する可能性があるため、言葉の選択には留意する。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書
試験の点数、小レポートの提出、授業態度を加味して評価する。		特に指定なし。授業時に資料レジメを配布する。
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		基礎分野
科目名	講師名	
解剖学 I	高橋 滋美	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	柔道整復師の臨床現場において、触診・鑑別の際の基本となる筋・骨格系の知識を習得することができるようになる。専門分野の学習に繋がる知識を身につける。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨の形状を描写することができる。</li> <li>2. 骨や筋の名称、構造、作用を理解し説明することができる。</li> <li>3. 国家試験レベルの問題を解くことができる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<small>骨格系</small> 1総論(1～2回)a.骨の役割 b.骨の形状による分類 c.骨の構造 d.骨の発生と成長 e.骨表面の形状(性状)についての用語 2各論(3～17回)a.脊柱 b.胸郭 c.上肢骨 d.上肢の関節 e.下 肢骨 f.下肢の関節 g.頭蓋 B筋系(18回～30回)1骨格筋 2頭部の筋 3頸部の筋 4胸部の 筋 5呼吸運動 6腹部の筋 7背部の筋 8上肢の筋 9下肢の 筋・教科書を要約したプリントを配布し、パワーポイントにて講義を 行う。 ・講義を始める前に、前の週の確認試験を行う。 ・長期休暇中に暗記してほしいポイントをまとめたプリントを配布す する。	・教科書を要約したプリントを配布し、 パワーポイントにて講義を行う。 ・講義を始める前に、前の週の確認試 験を行う。 ・長期休暇中に暗記してほしいポイン トをまとめたプリントを配布する。
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
定期試験の成績、出席状況、授業態度を加味して総合評価する。	解剖学(改訂版第2版) その他プリントを配布	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科	基礎分野	
科目名	講師名	
解剖学Ⅱ	杉山 渉	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	解剖学総論においては細胞・組織・発生について基本的知識を身につける。各論においては脈管系・内臓系・内分泌系について構造・機能を理解し、さらに臨床事例とも関連付けながら習得する。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞・組織・発生について基本的知識を身につける。</li> <li>2. 脈管系・内臓系・内分泌系について構造・機能が説明できる。</li> <li>3. 臨床事例と関連付け説明できる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	(前期) 1. 人体解剖学概説 ・細胞 ・組織 ・発生、器官 2. 脈管系 ・心臓 ・血管系 ・リンパ系  (後期) 4. 内臓系 ・消化器系 ・呼吸器系 ・泌尿器系 ・生殖器系 5. 内分泌系	復習を通して、自己の課題に気づき、課題克服に向けた取り組みを図るようにする。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書
成績評価の方法 期末試験に出席状況、授業態度等を加味し、総合的に評価する。		テキスト・教材・参考書 「解剖学」(改訂第2版)
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科	専門基礎分野	
科目名	講師名	
生理学 I	三條 敏也	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	人体を構成する各器官系について基礎知識を習得し、生理学的機能を理解する。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学の重要用語について説明できる。</li> <li>2. 教科書中の主要な図について説明できる。</li> <li>3. 教科書中の主要な表について説明できる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	教育内容テキスト各章のうち、呼吸器系、体温、内分泌系、生殖器官系、骨。の欄には授業回数を記載した上で主な内容を記載します。	授業プリントのファイル作成を行うこと。
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。	生理学 改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		
専門学校での授業等の実務経験あり。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科	専門基礎分野	
科目名	講師名	
生理学Ⅱ	三條 敏也	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	人体を構成する各器官系について基礎知識を習得し、生理学的機能を理解する。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学の重要用語について説明できる。</li> <li>2. 教科書中の主要な図について説明できる。</li> <li>3. 教科書中の主要な表について説明できる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	教育内容テキスト各章のうち、呼吸器系、体温、内分泌系、生殖器官系、骨。の欄には授業回数を記載した上で主な内容を記載します。	授業プリントのファイル作成を行うこと。
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
筆記試験に基づいて評価する。出席状況、課題レポートなどを加味する。	生理学 改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		
専門学校での授業等の実務経験あり。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科	専門基礎分野	
科目名	講師名	
一般臨床医学 I	小野寺 悟	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・後期	30時間／1単位／15回	講義
授業概要 (目的)	2年次に続く各論のスムーズな理解ができる様にする事が目的である。	
目標	1. 一般臨床医学総論について、診察概論、視診、打診、触診、生命兆候、感覚検査、反射検査、病的反射、代表的な臨床症状について十分に理解できる様になる。 2. 2学年次に続く各論のスムーズな理解に繋がられる様になる。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	診察概論、①視診：体格と体型、体位と姿勢、栄養状態、精神状態、異常運動、歩行、皮膚の状態、頭部、顔面、頸部、胸部、腹部、背部、腰部、四肢 ②打診、聴診、触診 ③生命兆候：体温、血圧、脈拍、呼吸 ④感覚検査、反射検査、病的反射、クローヌス、自律神経反射 ⑤代表的な臨床症状：発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛、浮腫、肥満、やせ	講義
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。	一般臨床医学 改訂第3版 医歯薬出版 ほかに毎回講義内容のプリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	無	
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門基礎分野
科目名		講師名
衛生学・公衆衛生学		田沢 光正
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	人間集団を対象とする生態系を含めた健康や疾病について、その予防や健康増進について理解できる。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人としての衛生学・公衆衛生学の基本的知識と方法論を習得する。</li> <li>2. 個人および集団の健康レベルと集団予防に寄与できる。</li> <li>3. 患者および他の医療従事者とコミュニケーションが十分にとれる。</li> </ol>	
授業内容	教育方法・留意点	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生n概念と歴史および健康の概念について学ぶ。</li> <li>2. 新進の健康を保持・増進するための基本的知識と方法論について習得する。</li> <li>3. 国・地方公共団体などの責任によって進められる保健行政(「地域保健、学校保健、産業保健、環境保健)や保健統計について学ぶ。</li> <li>4. 疫学的手法を学び、個人および集団に健康に寄与できる基本知識を身につける。</li> </ol>	成績評価の方法 定期試験の成績により評価する。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書
成績評価の方法 定期試験の成績により評価する。		衛生学・公衆衛生学(医歯薬出版) 講師が配布する{まとめ}と練習も問題
担当教員の実務経験の有無		無
実務経験の内容		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門分野
科目名	講師名	
柔道整復学 I	渡部 康光	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	柔道整復師として骨折や脱臼、捻挫、筋、腱などの軟部組織損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識の習得を目的とする。	
目標	骨折、軟部組織損傷の発生机序、症状、合併症、診断、後療法、固定法の基本を習得する。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	柔道整復術、人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎、骨の形態と機能、骨損傷の概説、骨損傷の分類、骨折の症状、骨折の合併症、小児・高齢者骨折の特徴、骨折の治癒に影響を与える因子、診察の手順、骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置、固定法、後療法、頭部外傷	
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
定期試験の結果を主に出席状況、授業態度等を加味して評価する。	柔道整復学理論編改訂第7版(南江堂) 他 プリント配布	
担当教員の実務経験の有無	有	
実務経験の内容		
柔道整復師として勤務経験あり。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門分野
科目名	講師名	
柔道整復学Ⅱ	山田 姫	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	講義
授業概要 (目的)	柔道整復学各論や臨床現場で必要な関節・筋・腱・末梢神経の基礎的知識を身につける。	
目標	関節・筋・腱・末梢神経の構造と機能の基本的知識について理解し、説明することができる。 関節・筋・腱・末梢神経の損傷について構造や機能を踏まえて考えることができる。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	(1～30回) 4-2 関節の損傷 4-3 筋の損傷 4-4 腱の損傷 4-5 末梢神経の損傷	教科書を中心に講義し、理解を深めるために図を入れたまとめプリントや各種模型を使用する。 理解度の確認のために演習問題などで確認しながら進める。
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
定期試験、授業内小テスト、出席状況などから総合的に評価する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 整形外科学 改訂第4版 病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 他プリントなど	
担当教員の実務経験の有無	有	
実務経験の内容		
柔道整復師として勤務経験あり。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門分野
科目名	講師名	
物理療法機器等の取扱い	西村 卓一	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・後期	30時間／1単位／15回	講義
授業概要 (目的)	3年次に控える国家試験を見据え、物理療法の取扱い方、適応症や禁忌と注意点について理解を深め、臨床現場で活用できる知識を身につけることができる。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理的エネルギーによる生体反応を学習して説明できる。</li> <li>2. 物理療法の取扱いと適応症や禁忌、注意点の説明ができる。</li> <li>3. 国家試験レベルの問題を解くことができる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電気療法2回</li> <li>2. 温熱療法2回</li> <li>3. 光線療法1回</li> <li>4. 寒冷療法1回</li> <li>5. 牽引療法および最新の物理療法1回</li> </ol>	物理療法機器の取扱いのポイントについて学習する →物理的エネルギーが生体にどのような反応をもたらすのか講義 →臨床現場での取り扱い注意点について講義 →演習問題(国試の傾向に沿った実践問題)を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書
定期試験	柔道整復学・理論編改訂第7版 他プリントを配布する。	
担当教員の実務経験の有無	有	
実務経験の内容		
柔道整復師として接骨院実務経験有り。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科	専門分野			
科目名	講師名			
柔道整復実技 I	露久保 範昭			
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法		
1年・通年	60時間／2単位／30回	実技		
授業概要 (目的)	基本包帯法を身につける 基本を身につけ、冠名包帯法や各部位の包帯法の技術を高める			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の各部位に対して、どの包帯をどのように巻くのが出来る</li> <li>2. 患者モデルに対して行うが、臨床現場を想定して行うことができる</li> <li>3. 各種包帯法を実施できる</li> </ol>			
	教育内容	教育方法・留意点		
授業内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 巻軸包帯について 基本包帯法(1)</li> <li>3. 基本包帯法(2)</li> <li>4. 基本包帯法(3)</li> <li>5. 基本包帯法(4)</li> <li>6. 基本包帯法(5)</li> <li>7. 試験前まとめ</li> <li>8. 冠名包帯法(1)</li> <li>9. 冠名包帯法(2)</li> <li>10. 冠名包帯法(3)</li> <li>11. 冠名包帯法(4)</li> <li>12. 冠名包帯法(5)</li> <li>13. 冠名包帯法(6)</li> <li>14. 冠名包帯法(7)</li> <li>15. 試験前まとめ</li> <li>16. 解説</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種材料の説明</li> <li>2. 材料を用いての包帯法(1)</li> <li>3. 材料を用いての包帯法(2)</li> <li>4. 材料を用いての包帯法(3)</li> <li>5. 三角巾の使用法</li> <li>6. 部位別包帯法(1)</li> <li>7. 部位別包帯法(2) 試験前まとめ</li> <li>8. 部位別包帯法(3)</li> <li>9. 部位別包帯法(4)</li> <li>10. 部位別包帯法(5)</li> <li>11. 足関節TAPING(1)</li> <li>12. 足関節TAPING(2)</li> <li>13. 足関節TAPING(3)</li> <li>14. 足関節TAPING(4)</li> <li>15. 試験前まとめ</li> <li>16. 解説</li> </ol> </td> </tr> </table>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 巻軸包帯について 基本包帯法(1)</li> <li>3. 基本包帯法(2)</li> <li>4. 基本包帯法(3)</li> <li>5. 基本包帯法(4)</li> <li>6. 基本包帯法(5)</li> <li>7. 試験前まとめ</li> <li>8. 冠名包帯法(1)</li> <li>9. 冠名包帯法(2)</li> <li>10. 冠名包帯法(3)</li> <li>11. 冠名包帯法(4)</li> <li>12. 冠名包帯法(5)</li> <li>13. 冠名包帯法(6)</li> <li>14. 冠名包帯法(7)</li> <li>15. 試験前まとめ</li> <li>16. 解説</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種材料の説明</li> <li>2. 材料を用いての包帯法(1)</li> <li>3. 材料を用いての包帯法(2)</li> <li>4. 材料を用いての包帯法(3)</li> <li>5. 三角巾の使用法</li> <li>6. 部位別包帯法(1)</li> <li>7. 部位別包帯法(2) 試験前まとめ</li> <li>8. 部位別包帯法(3)</li> <li>9. 部位別包帯法(4)</li> <li>10. 部位別包帯法(5)</li> <li>11. 足関節TAPING(1)</li> <li>12. 足関節TAPING(2)</li> <li>13. 足関節TAPING(3)</li> <li>14. 足関節TAPING(4)</li> <li>15. 試験前まとめ</li> <li>16. 解説</li> </ol>	基本を十分に習得し多様な応用ができるようにする
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 巻軸包帯について 基本包帯法(1)</li> <li>3. 基本包帯法(2)</li> <li>4. 基本包帯法(3)</li> <li>5. 基本包帯法(4)</li> <li>6. 基本包帯法(5)</li> <li>7. 試験前まとめ</li> <li>8. 冠名包帯法(1)</li> <li>9. 冠名包帯法(2)</li> <li>10. 冠名包帯法(3)</li> <li>11. 冠名包帯法(4)</li> <li>12. 冠名包帯法(5)</li> <li>13. 冠名包帯法(6)</li> <li>14. 冠名包帯法(7)</li> <li>15. 試験前まとめ</li> <li>16. 解説</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種材料の説明</li> <li>2. 材料を用いての包帯法(1)</li> <li>3. 材料を用いての包帯法(2)</li> <li>4. 材料を用いての包帯法(3)</li> <li>5. 三角巾の使用法</li> <li>6. 部位別包帯法(1)</li> <li>7. 部位別包帯法(2) 試験前まとめ</li> <li>8. 部位別包帯法(3)</li> <li>9. 部位別包帯法(4)</li> <li>10. 部位別包帯法(5)</li> <li>11. 足関節TAPING(1)</li> <li>12. 足関節TAPING(2)</li> <li>13. 足関節TAPING(3)</li> <li>14. 足関節TAPING(4)</li> <li>15. 試験前まとめ</li> <li>16. 解説</li> </ol>			
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書			
実技試験	教科書(包帯固定学) プリント資料			
担当教員の実務経験の有無	有			
実務経験の内容	柔道整復師として接骨院勤務 接骨院開設 介護施設開設。			

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野
科目名	講師名	
柔道整復実技Ⅱ	鈴木 星子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・通年	60時間／2単位／30回	実技
授業概要 (目的)	3年次に控える認定実技審査と国家試験を見据え、基礎的な測定法や検査法の実技を行うことにより、知識及び技術を習熟させるとともに、臨床現場で活用できる技能を身につける。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節可動域、徒手筋力検査を通して形態の正常を理解し適切な判断ができる。</li> <li>2. 体幹部・股関節部の損傷を理解しその検査法を実施できる。</li> <li>3. 患者への説明、助手への指示が適切に行うことができる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節可動域測定(10回)</li> <li>2. 徒手筋力検査(10回)</li> <li>3. 臨床徒手検査(10回)</li> </ol>	解剖学的用語説明(骨学・筋学・関節構造について)、関節可動域測定(ROM、関節角度計を用いた検査)、徒手筋力検査(MMT)体幹部・股関節部の臨床徒手検査をグループで術者役・患者役・助手役を適宜分担して実施する。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書
口頭試問(骨学の暗唱) 定期試験		柔道整復学理論編 改訂第7版(南江堂)ほか プリントを配布 東大式角度計、巻尺メジャー など
担当教員の実務経験の有無	有	
実務経験の内容		
柔道整復師として勤務経験あり。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門分野
科目名	講師名	
高齢者の外傷予防	西村 卓一	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・前期	30時間／1単位／15回	実技
授業概要 (目的)	高齢者の特徴的な外傷の予防及び機能訓練指導ができるようになることを目的とする。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活動作を理解する。</li> <li>2. 生理学的動作を誘導できるようになる。</li> <li>3. 高齢者への機能訓練指導を実施できるようになる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の理解(サルコペニア・フレイル)1回</li> <li>2. ロコモティブシンドローム1回</li> <li>3. 基本動作訓練指導2回</li> <li>4. 脳卒中片麻痺の基本動作訓練1回</li> <li>5. 深部腱反射 表在反射 病的反射2回</li> <li>6. 関節可動域訓練2回</li> <li>7. 上肢下肢ストレッチ2回</li> <li>8. 機能訓練評価方法1回</li> <li>9. 柔道整復師と介護保険制度1回 認知症と自立支援の理解</li> </ol>	機能訓練指導や検査法をわかりやすく要約したプリントを使用して実技を行う。 →実際に動作を誘導して生理学的動作を習得する。 →演習問題(国試の傾向に沿った実践練習)を課題として行わせ、授業で解説する。
成績評価の方法		テキスト・教材・参考書
定期実技試験		柔道整復師と機能訓練指導の他、資料配布
担当教員の実務経験の有無	有	
実務経験の内容		
柔道整復師として接骨院実務経験有り。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

柔道整復学科		専門分野
科目名	講師名	
競技者の外傷予防	西村 卓一	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・後期	30時間／1単位／15回	実技
授業概要 (目的)	競技者への外傷予防対策やトレーニング指導ができるようになることを目的とする。	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トレーニングの概要を理解する。</li> <li>2. トレーニングやコンディショニングの誘導や処置をできるようになる。</li> <li>3. 競技者へのトレーニング指導ができるようになる。</li> </ol>	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外傷再発予防テーピング4回</li> <li>2. スポーツ手技療法1回</li> <li>3. チューブトレーニング2回</li> <li>4. 競技特性格別外傷予防6回</li> <li>5. コンディショニング、ストレッチ2回</li> </ol>	トレーニングやコンディショニング方法をわかりやすく要約したプリントを使用して実技を行う。 →実際に動作を誘導してトレーニングやストレッチ動作を習得する。 →演習問題(国試の傾向に沿った実践練習)を課題として行わせ、授業で答え合わせをする。
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
定期実技試験	競技者の外傷予防の他、資料配布	
担当教員の実務経験の有無	有	
実務経験の内容		
柔道整復師として接骨院実務経験有り。		

# シラバス

令和7年度

MCL盛岡医療大学校

スポーツ柔整学科		専門分野
科目名	講師名	
臨床実習 I	山田 姫	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	教育方法
1年・前期および後期中間	45時間／1単位／23回	実習
授業概要 (目的)	全身の骨・筋肉・靭帯を解剖学的に理解し、適切な触察ができるようになる。	
目標	柔道整復師として必要とされる身だしなみや態度、コンプライアンスなどを身につける。 グループ学習や医療面接を通して円滑なコミュニケーションを行うことができる。 全身の骨・筋・靭帯の位置を理解し触察できる。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	(1～23回) 臨床実習の心得 医療面接・診察の流れ 生体観察・触診法(上肢・体幹・下肢) 鑑別疾患	骨・筋・靭帯の位置を骨模型で確認し、実際の身体で触察を行う。
成績評価の方法	テキスト・教材・参考書	
出席状況、臨床実習日誌の提出、態度や姿勢、授業内小テストなどを加味し総合評価する。	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 解剖学 改訂第2版 他プリント、骨模型など	
担当教員の実務経験の有無	有	
実務経験の内容		
柔道整復師として勤務経験あり。		